

SBSホールディングス株式会社
2008年6月中間期決算説明会

2008年8月28日

I. 2008年6月中間期(連結) 事業概況

中間期連結業績達成率サマリー

(単位:百万円)

	'08/12月期 通期業績予想 (公表値)	上期計画		上期実績	
		(公表値)	通期比		計画達成率
売上高	145,000	65,000	44.8%	71,468	110.0%
営業利益	4,000	1,400	35.0%	1,690	120.7%
経常利益	4,800	2,000	41.7%	2,139	106.9%
当期純利益	3,000	1,200	40.0%	△28	—

保有投資有価証券の株価下落、および業績回復の遅れている一部グループ会社の減損処理を実施し、特別損失が発生したことによって赤字計上

- 投資有価証券強制評価減 914百万円
- 事業用固定資産の減損処理
(リース資産を含む) 842百万円

2008年6月中間期 前年同期比サマリー

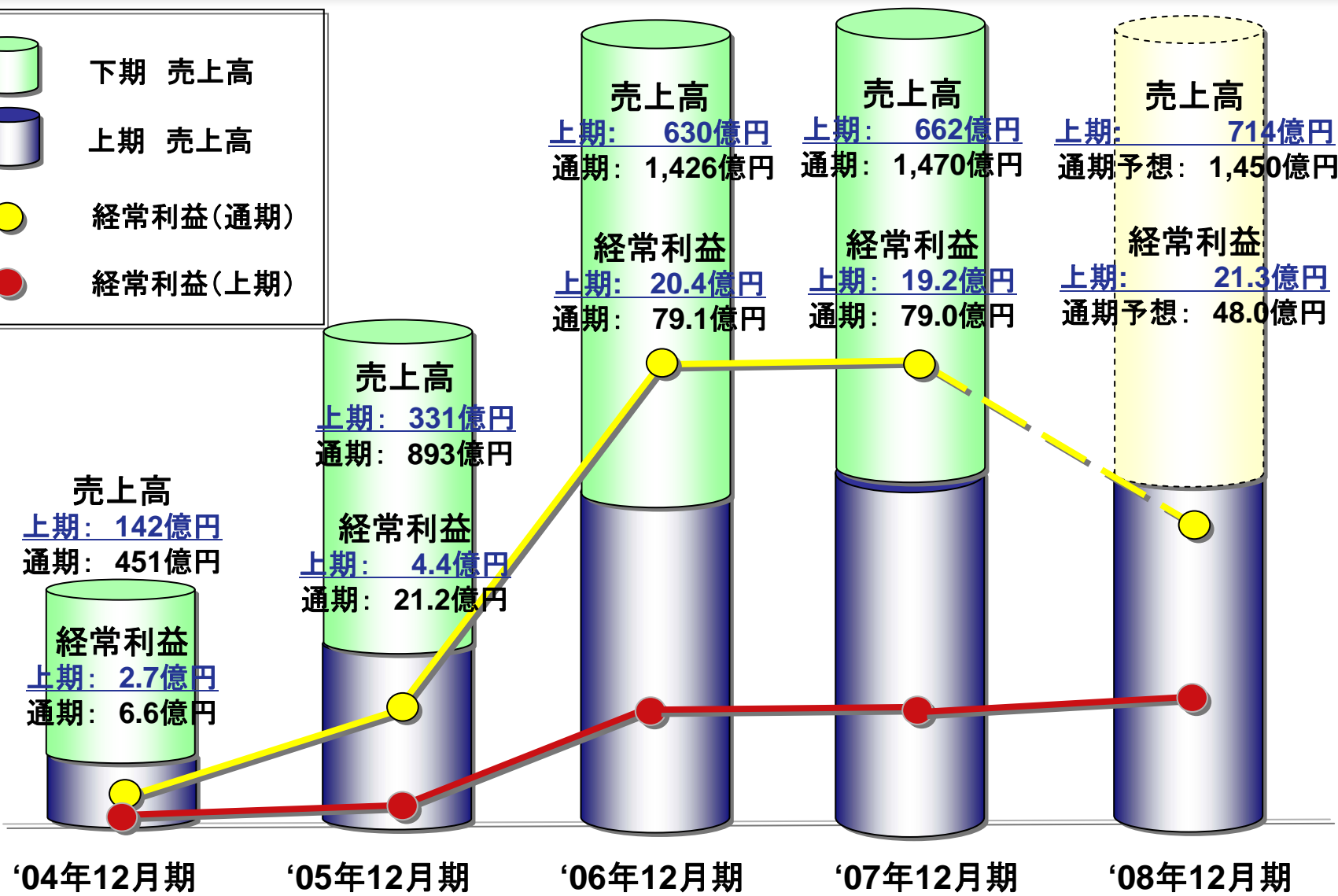
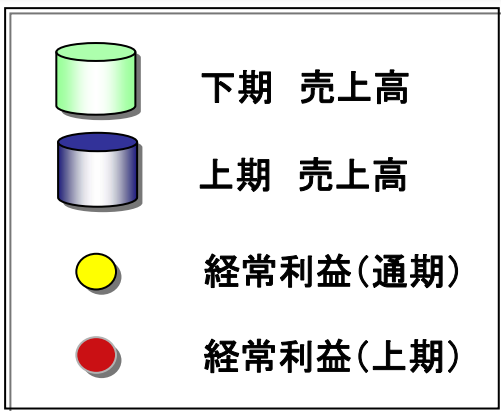


(単位:百万円)

	'07/6月中間期		'08/6月中間期			
	(実績)	構成比	(実績)	構成比	前中間期増減率	前中間期増減額
売上高	66,264	100.0%	71,468	100.0%	+7.9%	+5,203
営業利益	1,306	2.0%	1,690	2.4%	+29.4%	+384
経常利益	1,925	2.9%	2,139	3.0%	+11.1%	+213
中間期純利益	718	1.1%	△28	△0.0%	—	△746
EBITDA(*)	2,989	—	3,560	—	+19.1%	+571

* EBITDA = 営業利益 + 減価償却額

売上高・経常利益の推移



実績及び通期予想

セグメント別 売上高及び営業利益

物流事業	マーケティング事業	人材事業	金融事業	その他の事業	消去又は全社	連結
------	-----------	------	------	--------	--------	----

'07/6月中間期 (実績)

(単位:百万円)

売上高	57,379	5,430	2,600	385	470	—	66,264
営業利益	1,260	126	150	100	△148	(182)	1,306

'08/6月中間期 (実績)

(単位:百万円)

売上高	56,440	5,505	3,301	5,549	673	—	71,468
(前期比)	△1.6%	+1.4%	+27.0%	—	+43.5%	—	+7.9%
営業利益	1,192	55	213	507	△122	(155)	1,690
(前期比)	△5.3%	△56.3%	+41.3%	—	—	—	+29.4%

※参考

昨年10月に個人向け引越サービスの(株)ダックを売却いたしました。前上期からその影響を除くと右表のようになり、物流事業は増収増益になります。

物流事業	売上高	営業利益
07/6中間	54,704	1,140
08/6中間	56,440	1,192
増減額	+1,735	+52

特別損益の内訳

(単位:百万円)

特別利益 項目	金額	備考
固定資産売却益	705	環境変化等で物流不適となった事業用資産の売却を実施
その他	148	
特別利益合計	854	

特別損失 項目	金額	備考
投資有価証券評価損	914	評価損が発生した企業の株価下落は、株式市場低迷の影響を受けたもので、業績は堅調に推移している。更なる評価損発生可能性は少ない。
減損損失	842	物流の中で路線事業が主のグループ会社では、燃料高や物量減少の影響が大きく、収益回復が厳しい状況が続いている。そこで、一部営業所における収益回復可能性を見直し、減損処理した。
その他	136	
特別損失合計	1,893	

連結貸借対照表

(単位:百万円)

	'07/12月 (期末)	'08/6月 (中間)	増減
現金及び預金	7,284	9,361	+2,077
受取手形及び売掛金	17,822	15,822	△2,001
棚卸資産	8,486	4,422	△4,064
不動産信託受益権	3,834	6,796	+2,962
その他流動資産	3,228	2,556	△672
流動資産計	40,656	38,956	△1,699
有形固定資産	55,524	54,455	△1,069
投資有価証券	5,118	4,214	△904
その他固定資産	4,615	4,363	△252
固定資産計	65,258	63,032	△2,226
資産合計	105,913	101,988	△3,925

	'07/12月 (期末)	'08/6月 (中間)	増減
支払手形及び買掛金	9,958	8,732	△1,226
短期借入金	27,300	24,350	△2,950
一年以内返済予定 長期借入金	3,620	3,960	+341
その他流動負債	7,731	7,352	△379
流動負債計	48,609	44,394	△4,216
社債	5,050	5,000	△50
長期借入金	18,581	20,780	+2,199
負ののれん	3,845	2,877	△968
その他固定負債	10,394	10,531	+137
固定負債計	37,870	39,188	+1,318
負債合計	86,479	83,582	△2,897
純資産合計	19,434	18,406	△1,028
(内 自己株式)	(△89)	(△788)	(△699)
負債・純資産合計	105,913	101,988	△3,925

連結キャッシュフロー計算書

(単位:百万円)

	'07/6月(中間期)	'08/6月(中間期)	前年同期比 増減
営業活動によるキャッシュフロー	△3,280	5,401	+8,681
(内 税金等調整前中間(当期)純利益)	1,796	1,100	△696
(内 減価償却費)	1,682	1,870	+188
(内 負ののれん償却額)	△820	△723	+97
(内 利息の支払額)	△323	△342	△19
(内 棚卸資産及び信託受益権の増減額)	△3,951	2,029	+5,980
(内法人税等の支払額)	△2,447	△1,620	+827
投資活動によるキャッシュフロー	△6,432	△1,874	+4,558
財務活動によるキャッシュフロー	9,591	△1,543	△11,134
現金及び現金同等物に係る換金差額	△2	△0	△2
現金及び現金同等物の増加・減少額	△122	1,983	+2,105
現金及び現金同等物の期首残高	7,243	6,754	△489
現金及び現金同等物の中間期末残高	7,119	8,731	+1,612

通期連結業績達成への進捗状況

物流事業などの事業にかかる計画は堅調に進捗しており、
現在のところ、通期業績予想の変更はいたしません

(単位:百万円)

	'08/12月期 通期業績予想 (公表値)	上期業績		下期必要額	
		上期実績	進捗率	未進捗額	未進捗率
売上高	145,000	71,468	49.3%	73,533	50.7%
営業利益	4,000	1,690	42.3%	2,310	57.7%
経常利益	4,800	2,139	44.6%	2,661	55.4%
当期純利益	3,000	△28	△0.9%	3,028	100.9%

中間純利益が赤字となった原因である特別損失相当分については、下期に保有不動産の売却による特別利益で相殺する予定です。これにより通期予想の当期純利益を確保できる見通しです

同セグメント別の進捗状況

物流事業	マーケティング事業	人材事業	金融事業	その他の事業	消去又は全社	連結
------	-----------	------	------	--------	--------	----

'08/12月期 (予想)

(単位:百万円)

売上高	116,400	10,800	6,900	9,700	1,200	—	145,000
営業利益	2,500	235	440	1,425	60	(660)	4,000

'08/6月中間期 (実績)

(単位:百万円)

売上高	56,440	5,505	3,301	5,549	673	—	71,468
(進捗率)	48.5%	51.0%	47.8%	57.2%	56.1%	—	49.3%
営業利益	1,192	55	213	507	△122	(155)	1,690
(進捗率)	47.7%	23.5%	48.3%	35.6%	—	—	42.3%

【メ モ】

Ⅱ．SBSグループの経営状況と 今後の戦略について

経済・社会環境

原油・鉱物・穀物などの
資源価格の急騰

サブプライム問題による
世界的な金融不安

温暖化など環境問題対
策の取り組み急務



市場環境

6万社がシェアを奪い合
う過当競争が続く

燃料高が止まらず、コス
ト負担が限界

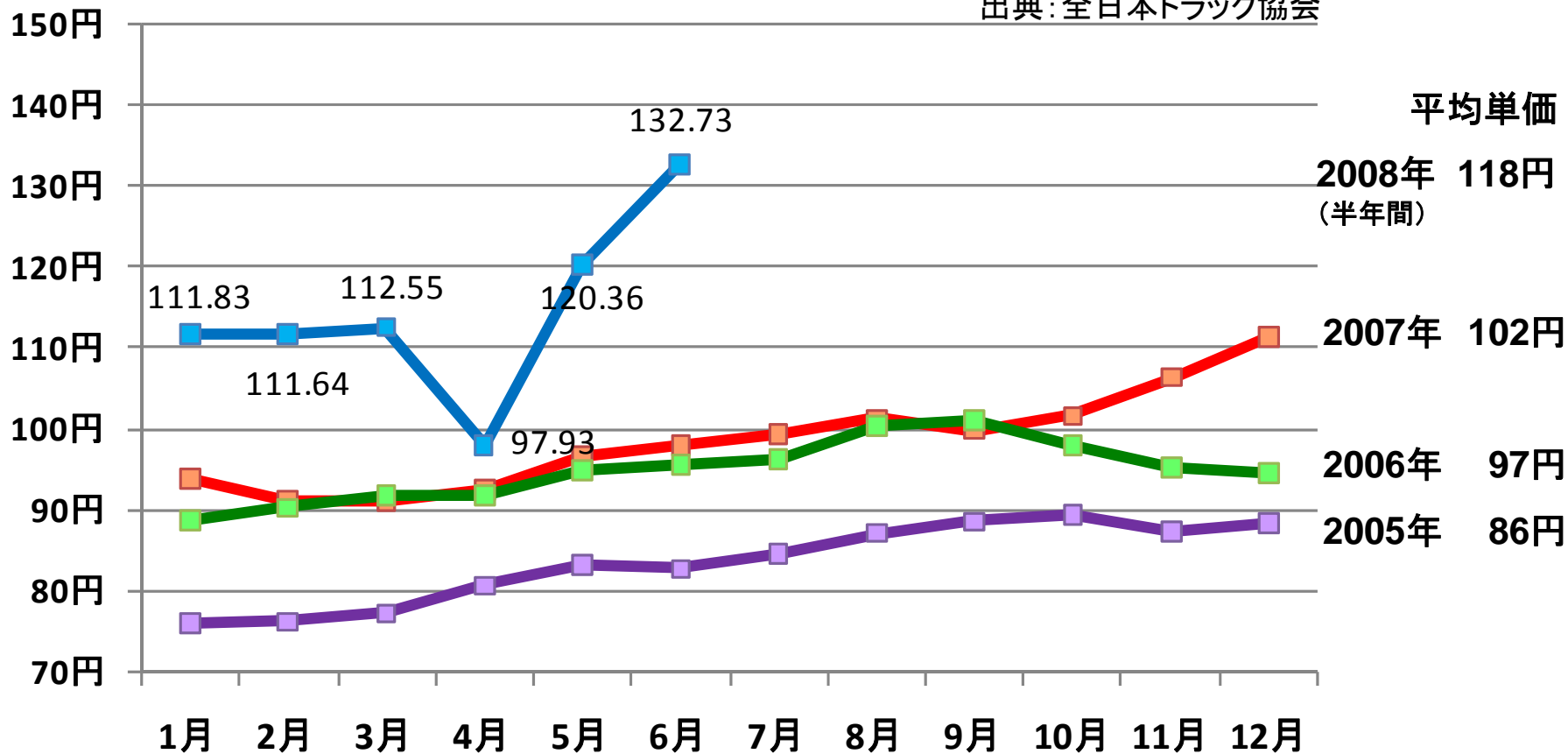
淘汰が始まり、物流業
界は勝ち組と負け組に

- ・燃料高など厳しい環境だったが成長達成
- ・評価損や減損により純損失を計上したが、
- ・通期では吸収し、期初計画を達成する

燃料費高騰による影響は？

参考：軽油単価の市場価格推移

出典：全日本トラック協会



燃料費高騰による影響は？

【SBSグループの軽油値上げによる影響】

上期の状況

- 軽油単価は前上期より18円80銭上昇
- 使用量を前上期より440キロリットル削減
- サーチャージにより約0.6億円を確保
- 最終影響額は1.6億円
- これを吸収し、物流は実質0.5億円増益

下期の想定

- 軽油単価は平均140円と想定
- 使用量を前下期より761キロリットル削減
- サーチャージ導入に本格取り組み、約3億円を確保するよう努力
- 最終影響額は1.8億円

軽油		上期実績	下期想定
2007年度	使用量	14,371 KL	15,233 KL
	単価	93.5 円	101.4 円
	金額	1,343 百万円	1,545 百万円
2008年度	使用量	13,931 KL	14,472 KL
	単価	112.3 円	140.0 円
	金額	1,564 百万円	2,026 百万円
増減	使用量	△ 440 KL	△ 761 KL
	単価	+ 18.8 円	+ 38.6 円
	金額	+ 221 百万円	+ 481 百万円
サーチャージ		△ 59 百万円	△ 300 百万円
最終影響額		162 百万円	181 百万円

注) 当社グループの燃料費は、軽油がその大半を占めますが、その他ガソリンやLPGなども一部使用しております。

不動産不況による影響は？

取得用地、完成施設が
不良資産化している
のではないかと

土地は物流適地を取得
施設は顧客獲得後開発
完成後は賃料収入有り

不動産不況によって
流動化の受け手が
いないのではないかと

物流不動産市場は堅調
住居・商業施設とは別物
当社の流動化は順調
建設・計画中にも引合い

流動化出口は確保可能
保有資産不良化は無い

主な施設開発の状況

(金額単位: 億円)

開発名称	土地 ^(坪)	建物 ^(坪)	投資残高	使用顧客	完成時期	流動化進捗
京田辺 (京都)	7,920	11,369	41	酒造業	07年4月	流動化時期を 検討中
川越 (埼玉)	9,881	12,118	53	百貨店、ホーム センター等	07年9月	流動化時期を 検討中
岩槻 (埼玉)	11,924	9,069	45	陸運業	07年12月	08年4月売却済み
入間 (埼玉)	7,930	7,930	32	陸運業	08年1月	08年9月売却予定 (契約済)
野田/木野崎 (千葉)	6,977	11,000	20	家具製造販売 業	09年4月 (建設中)	引き合い有り (交渉中)
横浜/長津田 (神奈川)	12,500	—	22	陸運業	10年予定 (未着工)	引き合い有り (交渉中)
芝山 (千葉)	33,954	—	3	未定	未定	—
野田/吉春 (千葉)	4,600	—	8	未定	未定	—
横浜/幸浦 (神奈川)	4,776	—	22	未定	未定	—
合計	100,462	51,486	245			

アルパインCBの期中償還対応

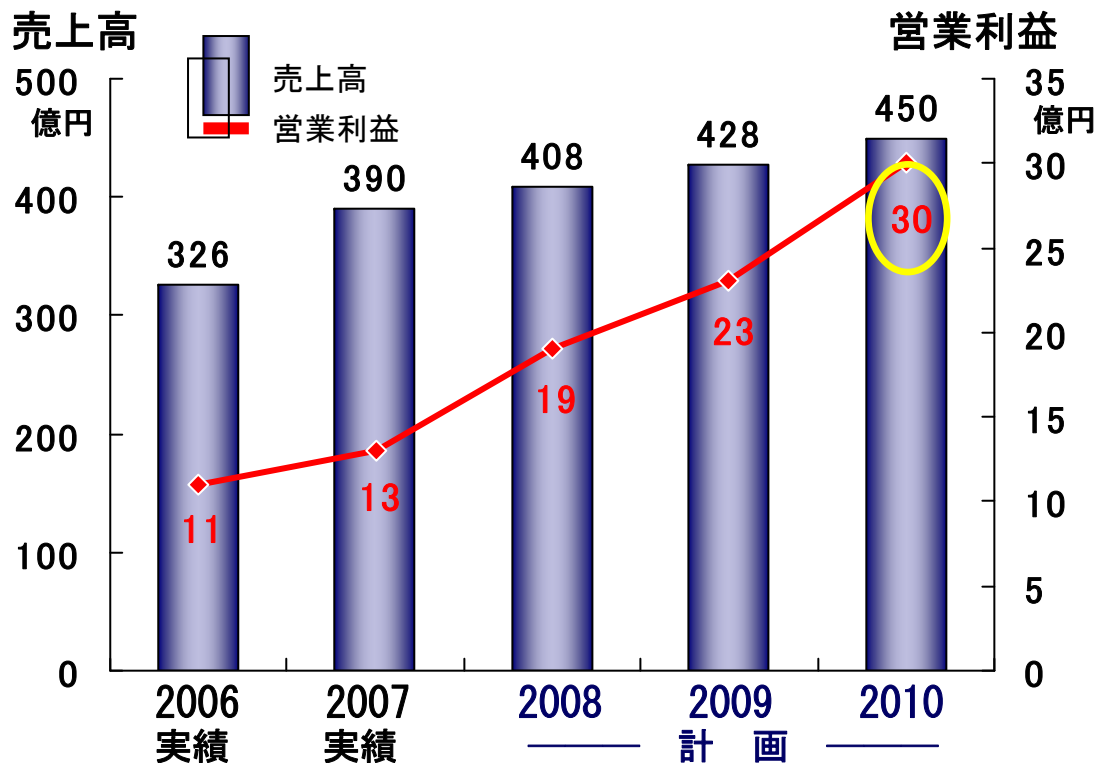
アルパインCB(円貨建転換社債型新株予約権付社債)を発行中

- ・ 発行日付：2005年9月21日
- ・ 満期日付：2010年10月8日
- ・ 発行価額：50億円(利率0%)
- ・ 転換価格：348,800円(下方修正条項により下限まで修正済み)
- ・ 期中償還：2008年10月にプットオプション行使が可能

全て行使と仮定すると
最大50億円の償還が
必要となる

償還資金は、三菱東京UFJ銀行を
アレンジャーとしたシンジケートローン
を組成し 資金調達予定

TLロジコムでの収益改善事例



2010年度
営業利益30億円
 を目指して
 収益改善に取り組中

<ティーエルロジコム株式会社>

沿革：1940年相鉄運輸として創立、1985年東証2部上場、2002年東急ロジスティックへ社名変更、**2005年6月TOBでSBSグループ入り**

売上高：390億円、従業員数：1,443名(2007年12月末現在)

事業所：関東を中心に東北、上海(中国)などに80拠点

事業：3PL・センター物流・倉庫・流通加工・運輸・通運・国際物流等

位置付：SBSグループの総合物流分野のコア会社

TLロジコムでの改善事例

経営改善

損益管理に
収益還元法
を導入

赤字事業所
の削減
2年後ゼロへ

事業所・倉庫
の統廃合

事業改善

3PL事業の拡大
一括受託による
収益性向上

赤字・低収益業務
の見直し
改善・値上・撤退

現場改善

MH当生産性管理

工程別作業管理

改善横展事例集

改善研修人材育成

Km当生産性管理

車両整備費削減

デジタルタコグラフ導入

求車求貨システム検討
(GPS携帯)

坪当生産性管理

保管効率改善

坪当たり賃料改善

空きスペース営業

物流合理化賞を受賞

日本ロジスティクスシステム協会主催「全日本物流改善事例大会2008」

『レイアウト変更による動線の改善と 品質改善による生産性の向上』

食品物流事業のコア会社であるフーズレック株式会社の岩沼物流センター（宮城県岩沼市）の改善事例を発表

- ・24時間365日体制による3温度帯の食品の入出庫、流通加工業務の冷凍・冷蔵食品の仕分け梱包作業において効率を妨げる問題を改善
 - ・人の動線に着目した庫内レイアウト変更
 - ・作業者の体型にあわせた作業台の自作
 - ・新商品有無や熟練者の出勤状況に連動した要員シフト
 - ・情報共有化管理ボードの設置、作業マニュアルの作成

・改善効果

品質＝賞味期限印字ミスを削減、生産性＝改善前に比べ15.5%向上



日本ロジスティクスシステム協会会長
三村明夫氏より表彰状授与

物流合理化賞とは、

毎年、日本ロジスティクスシステム協会等が開催している全日本物流改善事例大会の発表事例の中から、物流の実務面における優れた改善実績に対して贈られる表彰制度で、特に優れた内容に「物流合理化賞」が贈られます。

2008年度は次の15社が参加しました。

ヤマトシステム開発、日本トランスシティ、日本ロジテム、アシックス物流、ロジワン、**SBSグループ(フーズレック)**、日本通運、アサヒロジ、高末、サッポロ流通システム、オカムラ物流、オムロン、ヤマハ発動機、長浜キャノン、佐川グローバルロジスティクス

「事業インフラプロバイダー」として顧客成長に貢献

中長期的な 収益力強化

- 首都圏エリア特化戦略の推進
- B2Bへの経営資源の集中
- 改善活動・組織再編等による基礎収益力の強化
- 3PL事業による高付加価値化の推進

3PL連携 としての 施設開発

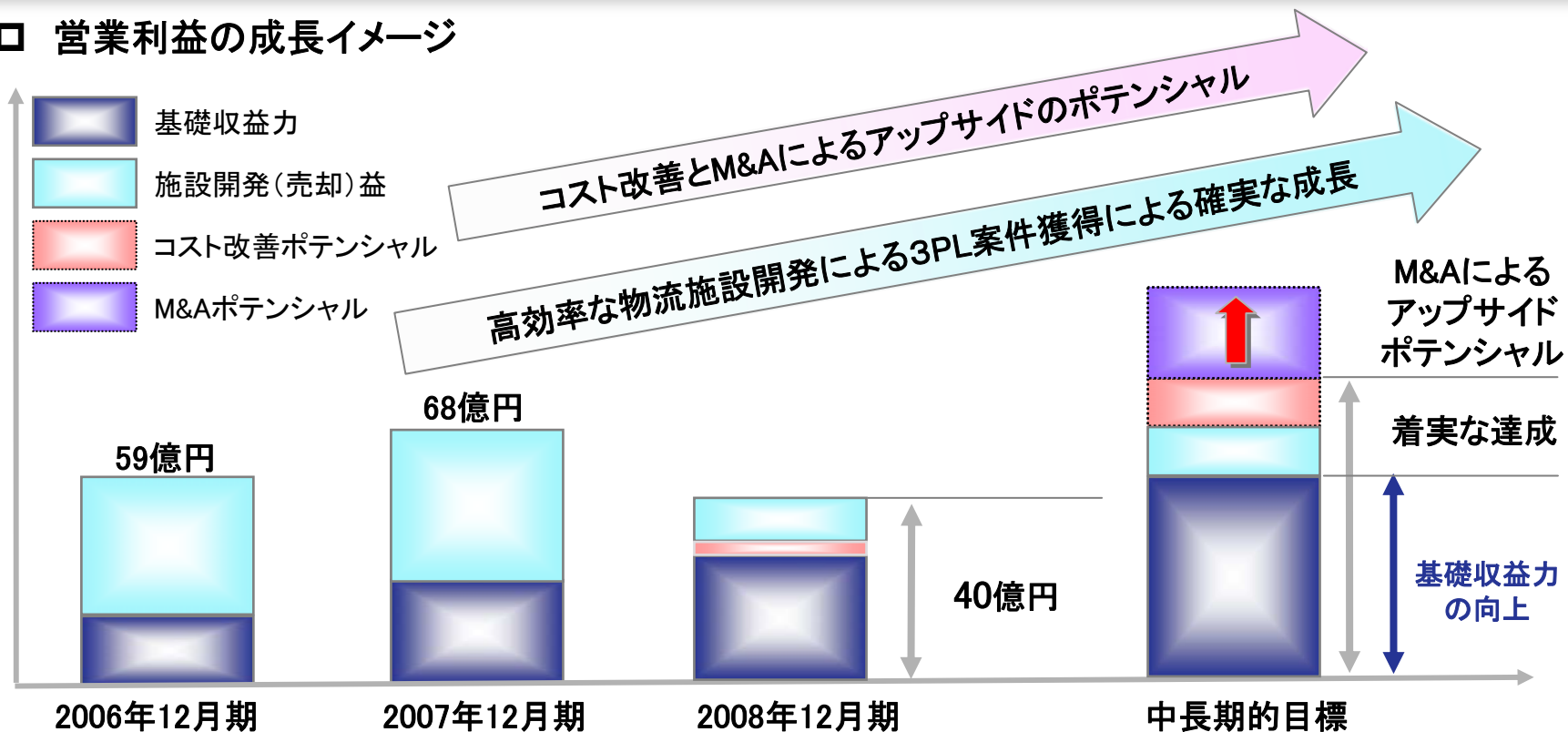
- 物流事業(3PL)を補完する役割として位置づけ
- 顧客に最適な立地・使用での高効率物流施設の提供
- 流動化スキームを活用した柔軟な投資回収

M&A による 成長加速

- M&Aによる成長戦略を継続
- 顧客基盤及び事業規模の拡大
 - 3PL事業における機能補完
 - グループシナジーの発揮効果

営業利益成長の中期的イメージ

□ 営業利益の成長イメージ



□ 主な成長要因

物流業界の競争激化によるM&Aの可能性の拡大

業務改善・グループシナジーによるコスト改善

高効率な3PL事業向け物流施設開発を伴う3PL案件の開拓

(ストック収入の着実な積み上げ及び開発済施設の機動的な流動化による資金回収)

会社概要（2008年6月末現在）

設立	1987年12月16日
代表	鎌田 正彦
資本金	38億3,393万円
発行済株式総数	130,684株 JASDAQ(2003年12月上場) (証券コード2384、J-STOCK 指定銘柄)
グループ会社	30社* (* 連結子会社数)
従業員数 (正社員数)	グループ連結 4,358人 単体 79人

IRに関するお問い合わせ

IR情報、IRに関するお問い合わせに当社ホームページをご活用ください

<http://www.sbs-group.co.jp>



TOPページ

<http://www.sbs-group.co.jp>

IR情報ページ

<http://www.sbs-group.co.jp/ir/>

- 本店所在地：
〒130-0012
東京都墨田区太平 4-1-3
オリナスタワー
- 部署： IR・広報部
- 電話： 03-3829-2240
- FAX： 03-3829-2822
- E-mail: contact1@sbs-group.co.jp

<将来見通しに関する注意事項>

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保障を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。また、業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。